

御室八十八ヶ所四国栗毛

「御室八十八ヶ所四国栗毛」（御室八十八ヶ所巡礼旅行記の意）は、仁和寺の御室八十八ヶ所巡礼を舞台にしたユーモラスな旅行記です。その2年前の大震災による修復を終え、巡礼路が再開されたことを記念して1832年に出版されたもので、仁和寺の宣伝としての役割も担っていました。作者の山東京鶴は、京都と江戸（現在の東京）を結ぶ交通路・東海道の旅の案内書として書かれた絵入り小説「東海道中膝栗毛」（東海岸旅行記の意；「Shank's Mare」の題で翻訳書も出版されている）を手本にして、この話を作りました。「東海道中膝栗毛」は12部構成で、日本で当時、最も人気のあった本のひとつであり、広く模倣されました。御室巡礼を舞台にした改作が出版されたという事実は、御室巡礼が、宗教的な場所以上のものとして捉えられていたことを示唆しています。この場所は観光地でもあり、気まぐれで風変わりな登場人物たちが登場する楽しい物語の背景となる場所でもありました。